

I 行政国家の成立と行政学の発展

1-1. 行政国家

<講義の概要>

- 行政現象を分析する場合に、重要な「社会管理」と「政治行政関係」という二つの視点ないし軸について説明する。
行政現象の「制度」「組織」「活動」という三つの要素について述べ、法学部における行政学、政治学系の科目との関連について述べる。
- 現代国家は、19世紀の国家と比べて、その構造は非常に複雑になり、広がりも大きくなった。
現代における行政の課題は、こうして形成された社会において発生した。
まず、このような社会構造の変化を「農村型社会」から「都市型社会」への変化と捉え、現代における行政課題の性質を明らかにする。
- 「現代行政国家」とはどのようなものか？
主権国家の誕生から、市民革命を経て近代国家が形成されていく過程で政府活動がどのように位置付けられていったか。19世紀の近代国家の自由主義政策と工業化、都市化がもたらした政府活動の変化について解説する。
- 20世紀前半における総力戦と大恐慌を経て、政府活動が、財政政策を通して社会のあり方を規定し、社会の発展をもたらすに至った経緯を論じる。そして、そのような政府活動の拡大と社会制御の能力の蓄積により、福祉国家の実現にいたる過程を述べる
- 1970年代以降の福祉国家の一種の行き詰まりへの対応として主張され、実施された行政改革、とくに「新公共管理論」に基づく改革の背景と現状について解説する。

<文献>

- 森田 『現代の行政』 第2章
- 西尾 『行政学』 第1章と第2章

1-2 行政学の誕生と発展

- 現代行政学が誕生したのは、アメリカ合衆国である。アメリカにおける政治的伝統と行政学誕生の背景を論じる。
- 初期のアメリカ行政学の基本的な考え方と「政治行政分断論」と呼ばれる理論を紹介する。
- 分断論の前提の変化と「政治行政融合論」への展開を論じる。
- 融合論として展開された「行政責任論」「政策研究」「政治過程分析」について紹介し、1980年代からの「新公共管理論」に至る学説史を解説する。

<文献>

- 森田 『現代の行政』 第3章
- 西尾 『行政学』 第3章、第4章

1-3 行政改革の理論

- 20世紀後半に世界的に行政改革が実施された背景。
福祉国家の行き詰まりと「新保守主義」と呼ばれる思想の普及。
- 行政改革の理論を知る上で重要なことは、その根本にある人間のイメージの転換と、それから導かれる「行政」「公共」概念の転換。
「公」－「私」の峻別から連続へ。
- 自己利益を追求し合理的に行動する経済人と、経済人が構成する「市場」のメカニズムを、行政活動に適用しようとする試み。
- 公共サービスの効率的供給方法の模索。多様な政策の選択肢。
たとえば、供給主体の性格、数、専門性、費用負担の方式 等。
- 先進国にみられた行政改革の展開。第1段階の民営化、規制緩和。第2段階の「新公共管理論」(NPM)。

- わが国における行政改革の展開と「新公共管理論」の導入。
-

<文献>

- 森田 『現代の行政』 第3章、第4章
- フッド 『行政管理の理論』 第1章、第4章
- 西尾 『行政学』 第3章、第4章

※ 授業中示さなかった参考文献を挙げておく。

邦語では、

- ①大住荘四郎『ニュー・パブリック・マネジメント—理念・ビジョン・戦略』1999、日本評論社
- ②稲継裕昭「パブリックセクターの変容」『分権と自治のデザイン』（森田朗編、有斐閣、2003）所収

英文では、少々古いが

- ① Dunleavy, P. and C. Hood, "From Old Public Administration to New Public Management", *Public Money & Management*, 14 (3):9-16, 1994
- ② C. Hood, "A Public Management for All Seasons?", *Public Administration*, 69(Spring), 1991